

# オルターナティブな生産と消費のあり方研究会 ～フェアトレードタウンに向けて～

団体名●坂井ゼミナール、高原ゼミナール／代表者名●高原幸子(人文学部国際文化学科・准教授)

## はじめに

フェアトレードとは、途上国で作られた作物や製品を、適正な価格で継続的に購入することにより、立場の弱い生産者の、持続可能な収入向上や生活を支え、自立を応援する貿易のしくみである。こうした目的のため、日本各地でフェアトレードタウン運動が繰り広げられている。金沢市も、昨年からこうした取り組みがあり、運動として街を盛り上げる機運が高まっている。

大学の授業を通じたアフリカ、アジアの地域開発の現状を知るとともに、こうした取り組みへ地域において学生たちが関わりを持つように、取り組んでいる。

## 活動内容

2021年10月23日(土)に金沢市役所庁舎前広場にて行われた「かなざわフェアトレードフェスタ」において、①フェアトレード・エシカル・ファッションショーに洋服を着るモデルとして学生たちが参加した。②国際協力NGOでバングラデシュやネパールの貧困解決のためのフェアトレード団体である、「シャプラニール」や「第3世界ショップ」において、販売の活動を行った。

エシカル・ファッションショーに使用した洋服は、「ピープルツリー」と「シサム工房」の協力であり、国際機関の国際フェアトレード機構(FLO)や世界フェアトレード機関(WFTO)の指針を守って作られている洋服である。スラムの女性たちや、障害がある人々の収入向上を目的としている。また、自然素材や手仕事を活かし、生産者の人権や環境に配慮している

## 成果、結果の考察

「洋服を着ることで、遠い国の生産者とのつながりを感じられる」、「消費者側の着る選択が、生産者の希望へとつながるように願う」といったファッションショーモデルの学生たちの感想があり、生活の一部である衣服の装いにおけるフェアトレードの理念の理解がうかがわれる。

また、地域の地産地消とグローバル化した社会のなかにおける理想の経済のしくみを目指す取り組みへと携わる意思が学生たちのなかに感じられた。

## 今後の課題、展望

今後は、金沢星稜大学内にフェアトレードサークルが立ち上がり、学内においてフェアトレードの啓発活動に取り組むとともに、地域連携として、金沢市をフェアトレードタウンにする取り組みである、「フェアトレードタウン金沢推進委員会」にも積極的に関わりながら、フェアトレードの基礎となるオルターナティブな生産と消費の在り方を追究していく活動を行う。



エシカルファッションショーの様子